ネスコ発行
山本夏彦著
植田康夫選
「何用あって月世界へ」

第 19 号（最終号）

引用文とヒゲ・じーちゃんの感想文の見分けが見た目に区別しにくいと思われるので、夏彦さんの文章を“黒色”、ヒゲ・じーちゃんの感想文を“青色”で識別する。

・「結婚したら主婦の友」というのは名文句だが時すでに遅かった、結婚しても主婦の自覚のない女ばかりの時代になって主婦の雑誌の寿命は尽きた。

ヒゲ・じーちゃんが子供から青年期にかけては主婦の友、主婦と生活の名前は承知していました。たぶん今は本屋の店頭から消えているものと推察します。小学校時代友達の悪ガキがどこで仕入れてくるのか、夫婦生活という雑誌をもってきて自慢げに見せてくれたこともありました。

・私はウーマンリブに期待したい.銀行員保険会社社員ついでに税務署員とは結婚しないと「非婚宣言」をしてはどうだろう。

昔は、ここにあげられた職業は賤業扱いでした。そのため、嫁に出すのも貰うのも大変苦労しました。戦後は、一流大学と称される大学の学卒者が入社するようになり今ではエリート社員扱いです。しかし、仕事の内容に変化はなく田舎の由緒正しき家庭ではこういう出自の子供さんとの結婚は敬遠されるのではないでしょうか。

「非婚宣言」は今ではその必要なく、あたり中非婚だらけです。昭和 30 年代に税務署に入署した女性で結婚せず（できず？）税務署長にまで上り詰めた女性もいます。

・どんな組織も十年たてば腐敗する。百年続いた国鉄を見よ、全逓を見よ。

今や日本国中が腐敗している。政治家、官僚、企業の経営者に至るまで哲学、倫理観まるでなし。当然のことながら、この人たちを見ている国民も腐敗のまっただ中にいます。国益、国防への関心もなく、愛国心は教育で破棄を強要され消滅してしまいました。その証拠に、日本の日教組と全教祖をはじめとする教育界、新聞、テレビ、法曹界まで反日の目白押しです。

・猫なで声で育てれば子供は真人間になるとでもいうのか。現代の親子の惨状を最もよ

く知りながら親どもはなお猫なで声を出す。ことに女たちは出す。

今や母親は子供に猫なで声、学校へはどら声を張り上げています。モンスター・ペアレントの厚顔無恥にはあきれるばかりです。しかし、これも因果応報。日教組が道徳教育、礼儀作法を子供に教えてこなかったことで、その付けがモンスター・ペアレントという存在になってブーメランのごとく先生たちに立ち向かっています。

・教育は十年で人間を変える。ヒットラーユーゲントは十年である。(わが軍国少年も)紅衛兵も十年である。共に目は澄んでいたといわれる。

日本の教育も子供を受け入れ一辺倒にしか頭の働かない、マスメディアの言うことを唯々諾々として受け入れてしまう駄目人間を世に送り出してしまいました。自己中心、他人への無配慮、順法精神の欠落、悪いことをしているという自覚なしの若者が巷に溢れかえっています。これらの若者は、40 代 50 代になったときどういう負のブーメラン効果を日本にもたらすのでしょうか。恐ろしい限りです。

・商売は道によって賢し。ヘアを剃ることを思いついたらいくつかの(水衣の)デザインが可能になった。全部剃るのか両わきだけ剃るのか。

”ヘア”を剃るとカタカナ語で表現しているため、どこの毛か一目瞭然となります。これをいきなり毛を剃ると書かれたら、効果半減になるでしょう。言葉も使い方次第ですね。

・私は断言する。新聞はこの次の一大事の時にも国をあやまるだろう。

文藝春秋発行、山本武利著、朝日新聞の中国侵略という本をひげと家族のホームページで紹介しました。今この本の表紙のタイトルを読むと、そんな馬鹿なという思いをされるでしょう。しかし、これは戦前の昭和時代に朝日新聞が、中国侵略をたきつける大キャンペーンを展開していたということを紹介している本です。このキャンペーンに踊らされて日本国民が一丸となって戦争志向になり大東亜戦争へとのめり込んでいきました。戦後、朝日新聞は極右から極左に宗旨替えし、反日親中キャンペーンを張り、左右混合の得体の知れない民主と政権を誕生させてしまいました。日本の進むべき方向を決められないという国益損傷状態は目も当てられない状況になっています。

・メーカーは技術者にマニュアルを書かしてはいけない。最も知る人は最も知らない人に訴える方法を知らない。

メーカーの製造物を設計した者、製造した者は当然のことながら製品の機能、性能、

使用方法は熟知しています。そのため、その製品を使用する初心者でもこのくらいのことを知っているだろうという範囲が広くなってしまいます。その使用、整備方法を扱う取扱説明書の理解しにくさ、不明な部分を使用者から指摘されると、技術者は初心者はこんなことも知らないのかと驚くことになります。

それにもまして、一般的に言うとマニュアルに使われる日本語の稚拙さが影響しています。ヒゲ・じーちゃんは、技術者が書いた日本語を英語に訳する仕事をしていましたが、日本語表現の稚拙さに驚かされた経験があります。

・「年寄のバカほどバカなものはない」ということわざ、大好きです。

病院内で罵詈雑言を大声で吐く老人を目の当たりにして、この言やしかりという思いでした。また、スーパーで誰と話しているのか、男性老人が携帯電話で”今の世の中、何をやっても自由だからやっちまえばいいんだ”と他のお客にも聞かせるつもりか店中に響きわたるような大声で、それも数え始めてから8回この台詞を繰り返していました。こんな馬鹿老人が町中を徘徊していれば、世の中悪くなる一方でしょう。